令和8年度 行政懇談会


磐梯町のまちづくり
役場
令和8年度 行政懇談会
令和8年6月～8月
自分たちの子や孫が暮らし続けたい
磐梯町
磐梯山
道の駅ばんだい

町の行動指針

行政の使命（Mission）

町民全員の幸せ

誰もが自分らしく生きられる共生社会の共創



町の将来像（Vision）

自分たちの子や孫たちが
暮らし続けたい魅力あるまちづくり

共創・協働のまちづくり



職員の行動ルール（Values）

すべては町民起点で考える





行動指針をもとに総合計画を策定



まちづくりの3つのステップ

Step1
令和元年度～令和4年度

財政の立て直し



新型コロナウイルス
感染症対策

ふるさと納税の大幅増加



Step2
令和3年度～令和7年度

行政基盤の整備



商業施設の誘致・
オンデマンド交通・
地域通貨



Step3
令和7年度～令和12年度

人口4,000人計画



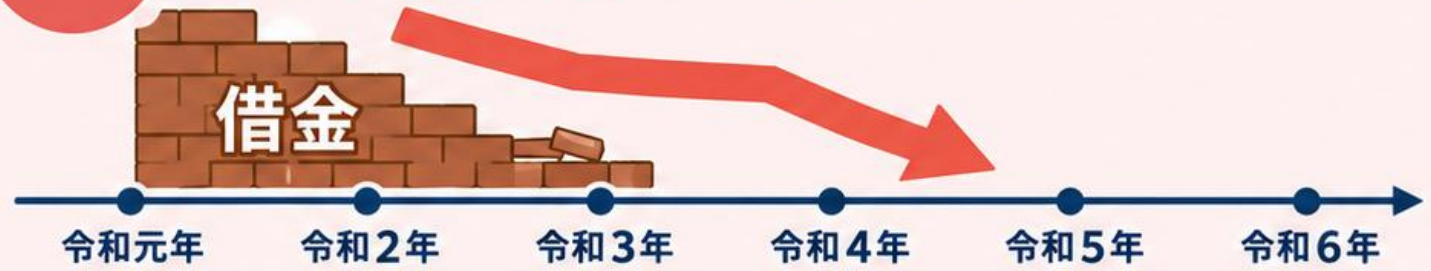
産業振興・子育て・教育
移住・定住・交流



6年間の財政改善

令和元年度～令和6年度

Step1 約29億円の借金返済（年間約5億円）



合計 約37億円 改善





約8.2億円の貯金積み増し

借金を減らし、貯金を増やして、
未来につながる健全な財政運営を進めています。

まちづくりの3つのステップ

Step1
令和元年度～令和4年度

財政の立て直し



新型コロナウイルス
感染症対策

ふるさと納税の大幅増加



Step2
令和3年度～令和7年度

行政基盤の整備



商業施設の誘致・
オンデマンド交通・
地域通貨



Step3
令和7年度～令和12年度

人口4,000人計画



産業振興・子育て・教育
移住・定住・交流



定住を支える行政基盤の整備

住宅・環境

安心な住まいの提供
持続可能な環境づくり



生活基盤

ライフラインの
安定供給



仕事・生きがい

多様な働き方の推進
生涯学習の促進



定住

教育・子育て

質の高い教育
子育て支援体制



健康・医療・福祉

地域医療の充実
介護サービスの提供



地域活性化・産業振興

観光資源の活用
起業・創業支援
需要喚起
商店街の体質強化



行政基盤整備の相乗効果

移動 × 消費 × 循環 ＝ 地域活性化の好循環

1 大型商業施設の誘致

- 町内で生活必需品がそろう
- 高齢者も安心して買い物
- 来年：ドラッグストア併設



2 AIオンデマンド交通

- ドア・ツー・ドアで移動可能
- 高齢者100円・高校生以下無料
- 今年4月から21時まで運行拡大



3 地域通貨 ばんだいコイン

- 10％プレミアム
- 住民も町外の方も利用可能
- 消費額 1.8億円
- 経済波及効果 6倍



3つの施策が生み出す相乗効果

外出機会の増加（移動のハードル低減）



- 高齢者や子どもも気軽に外出
- 活動時間の拡大（夜間運行延長）

町内消費の拡大（流出防止＋外貨獲得）



- 町外流出の防止
- プレミアム効果で消費喚起と経済循環を強化

交流人口・関係人口の増加



- 来訪者の利便性向上と消費促進
- 交流機会の増加 から 関係人口と愛着人口を創出

「便利・お得」から「活性化・交流拡大」へ

持続可能な地域経営モデルの確立

子育て・教育の魅力化

教育移住と学校選択制を、人口政策の力に



子育て環境の整備

認定こども園の開園と
放課後児童クラブの一体化

日本一魅力的な子育て環境を目指す



未来につながる教育

教育移住と学校選択制

2つの特色ある小学校で
未来を生き抜く力を育てる

幼保連携型認定こども園＋放課後児童クラブ（完成イメージ）



学校選択制で生まれた成果

今年４月時点





教育移住 25名増

子ども14名　保護者11名

子ども14名＋保護者11名＝**25名増！**

学校選択

磐梯第一小学校から
磐梯第二小学校へ 5名



学びを選べるまちが、新しい家族と子どもたちを迎えています

産業振興で魅力化

1 農業振興



- **新規就農者増　9名増**
  （地域おこし協力隊３名が卒隊後に就農）
- **農業生産法人　３法人 → ４法人へ**
- **企業の農業参入**
  今年４月にSIGMA「シグマ会津ファーム」が農業参入 ／ 地域環境の維持を目指す新たな取り組み



2 起業サポート・企業誘致



- 地域おこし協力隊や地域活性化起業人の起業をサポート
- 藍染工房や旅行会社や行政書士事務所の立ち上げ
- 天鏡株式会社（榮川酒造）本社誘致



3 道の駅と慧日寺門前通りを中心とした観光活性化（集客100万人を目指す）



- 道の駅ばんだいではイベントやEバイクの導入強化
- 慧日寺門前通りではbandaicoffee・庄九郎亭の魅力化
- 「道の駅ばんだい」と「史跡慧日寺跡」との連携強化により、集客100万人を目指す



健康・医療・福祉で魅力化

① 瑠璃の里

医療と介護の地域拠点



24h

24時間・365日。
医療と介護をトータルで支える
地域の拠点。

＼人生のそばで、ずっと支える。／

**生まれる前から、人生の最期まで。
切れ目なく支えるまち、磐梯町。**



② 磐梯版ネウボラ

妊娠・出産・乳幼児期・就学から
中学校卒業までの伴走支援



**妊娠・出産・乳幼児期・就学から
中学校卒業まで。**
一人ひとりに寄り添う
切れ目のない伴走支援。

③ マイシェルパ

デジタルで心の健康をサポート



専門医によるオンライン相談。
心の健康をデジタルで
早期ケア。

④ 子ども医療費助成

安心して育てられる環境を



18歳まで所得制限なしで無料。
安心して育てられる
環境を提供。

町民全員を対象に、昨冬のインフルエンザ予防接種を無料化

心愛会との連携で、支え合う福祉のまちづくり

担い手の育成と集落の課題解決で、安心して暮らし続けられる磐梯町へ

介護職員初任者研修の実施

地域福祉を支える担い手を育成！



磐梯町 × 社会福祉法人 心愛会 連携協定



地域福祉の担い手が育ち、集落の課題を解決！

コミュニティソーシャルワーカー（集落支援員）

集落の課題を住民とともに解決！



高齢者福祉の充実





支え合い・助け合いのある、安心して暮らせるまち

瑠璃の里（保健医療福祉センター）

医療・保健・福祉が連携した総合拠点



研修後のサポート・就労支援



磐梯町社会福祉協議会

地域福祉の推進役としてみんなをつなぐ





一人ひとりが主役の、支え合いのまち 磐梯町

仕事・生きがいをサポート

磐梯町資格等取得補助



学ぶ・資格取得を
サポート



スキルアップ・
キャリア支援



医療・福祉などの
資格取得を支援



受験料・講習料を
補助



資格取得で
キャリアアップ



取得費用の一部を
補助します



建設・技術系の
資格も対象



医療・福祉の
専門職を応援



働きながらの取得も
サポート



磐梯町生涯学習受講支援



趣味・文化・教養を
学べる講座を応援



暮らしに役立つ
学びをサポート



健康づくり・生きがい
づくりを応援



人とのつながり・
地域活動を支援



地域のイベント・講座
への参加をサポート



学びを通じて
自分らしく輝ける



学ぶ喜びが
明るい毎日につながる

資格取得も、生涯学習も。磐梯町があなたのチャレンジを応援します！

まちづくりの3つのステップ

Step1
令和元年度～令和4年度

財政の立て直し



新型コロナウイルス
感染症対策

ふるさと納税の大幅増加



Step2
令和3年度～令和7年度

行政基盤の整備



商業施設の誘致・
オンデマンド交通・
地域通貨



Step3
令和7年度～令和12年度

人口4,000人計画



産業振興・子育て・教育
移住・定住・交流



磐梯町が目指す人口4,000人構成モデル

多様な人々が関わり、活力を生み出す

1 定住人口

磐梯町に拠点を置き
暮らす人々



2 昼間人口（通勤・通学・観光）

昼間に滞在し、活動する人々



日々関わる
4,000人

定住・滞在・愛着の
総和

3 交流・関係人口

町の観光や地産品を
楽しむ人々



愛着人口（ファン）

町を愛し、魅力を高める
応援者たち



4 二地域居住者

都市と磐梯町を行き来する
ライフスタイル



2030年までに200戸供給へ 定住人口対策・住宅供給ロードマップ

① 定住人口

1 空き家対策



空き家購入 → 改修



賃貸から定住へ

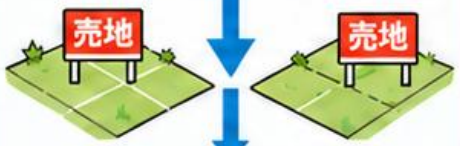


空き家の仲介 → 流通数の増加

2 町有地・空き地対策



町有地の販売強化



空き地購入後の販売



3 アパート建設対策



アパート用地確保



経営者の誘致

アパート建設



入居者募集



4 公共施設・遊休施設の活用



既存施設（廃止施設）の活用

- シェアハウス



- 町内企業向け独身者用寮



5 お試し住宅の強化



未利用施設（例：未日常）活用 → 長期滞在



複数のお試し住宅を整備





2030年 200戸供給を目指す

定住人口の増加へ

② 昼間人口

磐梯町は「昼間人口」が多いまち

2020年国勢調査から見る人の流れ

昼間人口
4,340人
常住人口に通勤・通学による流入・流出を加減した人口

夜間人口（常住人口）
3,322人
町に住んでいる人の数

昼夜間人口比率
130.64%
昼間人口は夜間人口の約1.3倍　※2020年データ

通勤・通学の人の流れ（2020年）



町外から磐梯町へ
1,552人

主な流入元
- 会津若松市　1,109人（約71%）
- 喜多方市
- 猪苗代町　など





磐梯町から町外へ
534人

主な通勤・通学先
- 会津若松市　357人（約67%）
- 喜多方市
- 猪苗代町
- など

流入超過
+1,018人
町外へ出ていく人より、町内へ来る人の方が**多い！**

昼間人口が多い理由



製造業の集積
町内には大規模な工場などがあり、周辺の市区町村（主に会津若松市や喜多方市など）から多くの通勤者を受け入れています。



リゾート産業の充実
スキー場やゴルフ場、ホテルなどのリゾート施設が整備されており、観光やサービス業の雇用も昼間人口を押し上げる要因となっています。



アクセスの良さ
会津若松市に近く、交通の利便性も高いため、毎日多くの通勤・通学者が往来しています。



町外へ出ていく人より町内へ働き・学びに来る人の方が
1,018人多い「流入超過」の状態です。

データの出典：2020年国勢調査
- 昼間人口　：4,340人
- 夜間人口（常住人口）：3,322人
- 昼夜間人口比率　：130.64%

③ 交流・関係人口　交流人口から愛着人口へ　地域の未来をつくる















訪れる人、応援してくれる人、そしてつながる人を増やし、持続可能な地域づくりへ

④二地域居住者 ｜ 二地域居住者（ふるさと住民）の6つのパターン

～ 磐梯町とつながり、関わり続ける人たち ～

1 都会の企業に勤務しながら、スキーなどの趣味を楽しみ、リモートワークをする人たち



リモートワーク　スキーとアウトドア　自然の中でリフレッシュ

2 磐梯町の目指す教育に興味を持ち、お母さんと子どもが移住をし、お父さんは週末に磐梯町に来る人たち



磐梯町の教育　親子で移住　週末は家族で

3 磐梯町の企業や行政に参加をし、週に何日かまたは月に何日か磐梯町に来る人たち



企業・行政と連携　週数日・月数日で参加　関わり続ける

4 磐梯町の自然や環境に興味を持ち、週末に磐梯町に来る人たち



自然・環境にふれる　アウトドアと体験　週末にリフレッシュ

5 地域の人々に興味を持ったり、友達になって、定期的に親戚に会う感覚で訪れる人たち



地域の人と交流　友達・つながり　定期的に訪問

6 磐梯町に故郷を持ち、定期的に帰ってくる人たち



ふるさとを大切に　家族・親戚との時間　定期的に帰郷

どんな関わり方でも、あなたとのつながりを大切にします。

ふるさとを、もっと身近に。磐梯町と、つながり続けよう。

「価値人口4,000人」を目指して

多様な人々が関わり、活力を生み出す磐梯町へ

1 定住人口 3,000人

磐梯町に住み、暮らしを支える人々



住みやすい環境づくり
快適な住環境・子育て支援
医療・福祉の充実

魅力ある仕事づくり
地元企業の成長支援
起業・創業の促進

つながりを育むまちづくり
地域活動・コミュニティの活性化
安心して暮らせるまちへ

2 町外からの就業人口 1,500人

磐梯町で働き、まちを支える人々

企業誘致・サテライトオフィスの推進
多様な働く場の創出

リモートワーク・ワーケーションの推進
自然の中で働ける環境づくり

通勤・アクセスの充実
便利で快適な移動環境の整備



目指す姿

価値人口 4,000人

人とつながり、まちの未来を創る
磐梯町へ

3 愛着人口 3万人

磐梯町を応援し、関わり続けてくれる人々

ふるさと納税・寄付で応援
まちの未来づくりをサポート

情報発信・交流の強化
SNS・イベントでつながる

磐梯ファンの拡大
観光・特産品・体験を通じて
磐梯の魅力を発信



4 二地域居住者（ふるさと住民）

磐梯町と都市を行き来し、関わる人々

多様な関わり方を応援
週末移住・長期滞在・
ワーケーション

ふるさと住民制度の充実
特典・情報提供・交流の場づくり

地域とのつながりを深める
イベント・ボランティア・
地域活動


週末に自然や
趣味を楽しむ人


教育に関心を持ち
家族で移住する人


企業や行政に参加し
定期的に来る人


自然や環境に関心を持ち
週末に訪れる人


地域の人とつながり
定期的に訪れる人


故郷を持ち
定期的に帰ってくる人

これらの取り組みを支える基盤


自然・環境の
保全と活用


デジタル活用による
つながり強化


産業の活性化と
魅力づくり


子どもたちの
未来への投資



みんなでつくる、持続可能な磐梯町へ！



個別テーマのご紹介

ここからは、3つのテーマを個別にご紹介します

01 町民の幸せプロジェクト

しあわせの再デザイン



町民の幸せを中心に、
まちづくりと行政のあり方を見直す

02 ごみ減量からネイチャーポジティブへ

自然を守り、回復させる取り組み



資源循環・脱炭素・生物多様性を
地域の豊かさにつなぐ

03 上下水道料金の改定

安全で安定したサービスを次世代へ



改定の背景と今後の予定、
家計への影響をご説明します



磐梯町 町民の幸せプロジェクト

— しあわせの再デザイン —

目指す姿

人口 4,000人
子や孫が暮らし続けたいまちへ

持続可能な地域経営
健全な財政と未来への投資

町民起点の役場
町民と共に創る行政

幸せを実感できるまち
誰もが誇りを持ち
幸せを感じられるまちへ

町民の幸せ



- 誰一人取り残さない
- 誰もが自分らしく生きられる
- 子や孫が暮らし続けたいまち

1 まちづくりの再デザイン



- 魅力あるまちづくり基盤
- 定住・人口4,000人戦略

2 行政経営の再デザイン



- 持続可能な行政運営
- デジタル化・財政健全化

3 働き方の再デザイン



- 職員の働き方改革
- 多様なライフスタイル対応

4 共創・協働の再デザイン



- 企業・自治体・外部人材連携
- 旅する公務員・関係人口拡大

推進体制

共創・協働会議



町民・議会・職員・企業・団体など多様な主体が参画

推進本部



企画・立案・進捗管理
（町長を本部長とする）

部会（3領域）



まちづくり・行政経営・働き方を共創・協働の3領域で検討

ワーキング



現場での実行・検証・改善を行う実働チーム

多様なプロジェクト（約28事業）

生活・暮らし	教育・子育て	産業・観光	健康・福祉	DX・行政サービス	関係人口・移住定住	人材育成・共創
安心・安全で暮らしやすいまち	磐梯の教育 0-15 未来を育む環境づくり	稼ぐ力を高める産業と観光の振興	誰もが健やかにつながり支え合うまち	デジタルで便利に効率的な行政サービス	関わる人を増やし住み続けたいまちへ	人材が育ち、共に未来を創るまちへ



ごみ減量からネイチャーポジティブへ

資源循環・脱炭素・生物多様性を、地域価値の創造へつなぐ

磐梯町はなぜ「ごみ削減」からネイチャーポジティブへ向かったのか？

① ごみ削減からスタート

ごみを減らす・資源を循環させる



分別の徹底　生ごみの削減・堆肥化（コンポストなど）



リサイクルの推進



廃食油の回収・再利用（BDFなど）



家庭・事業所・学校・団体など
みんなで取り組む

② 取り組みの中で生まれた気づき

ごみ問題は、自然・気候・暮らしにつながっている！





みんなで学び、つながり、未来を考える

③ ネイチャーポジティブへ

自然を守るのではなく、
自然を回復させ、豊かにするまちへ



生きものが豊かに暮らせる環境をつくり、
次の世代へつなぐ
ネイチャーポジティブな磐梯町へ！

自然資本を基盤にした地域価値創造モデル

最終目的（地域価値の創造）
「磐梯町に住んで良かった・住みたい」
子や孫が暮らし続けたい魅力あるまち

企業支援・官民共創

ネイチャーポジティブな地域づくりを企業と共に推進



- ESG経営支援
- GX・脱炭素支援
- TNFD・自然関連情報開示
- CSR・地域貢献活動
- 官民パートナーシップ

経済圏
- ネイチャーポジティブな地域産業
  - 農業・観光・林業
  - 企業活動・GX
  - 新たな雇用とイノベーション

社会圏
- 共創・協働の地域社会
  - 教育・福祉・暮らし・防災
  - 文化・スポーツ・
  - 地域コミュニティ

生物圏（自然資本の回復）
- 資源循環（ごみ削減・資源循環）
- 省エネ（CO_2削減）
- 自然保全（生物多様性）

地域価値の創造へ

自然資本が回復する
↓
社会が豊かになる
↓
経済が発展する
↓
地域価値が創造される

自然を守り、活かし、未来へつなぐ

上下水道料金の改定について

令和8年度 行政懇談会 ｜ 磐梯町 建設課



令和10年度に約7%の引き上げを予定

安全で安定した上下水道サービスを、子や孫の世代へ



なぜ改定が必要？

- 人口減少による料金収入の減少
- 施設の老朽化と更新費用の増加
- 物価上昇による経費の増加

町も経営改善を進めます



移住・定住の推進、計画的な施設更新、経費削減

家計への影響〈7%引き上げの場合〉

4人世帯・月24m³使用の例（1人当たり月6m³）

月額	現在	改定後の試算	増額
水道	3,828円	4,096円	268円
下水道	3,790円	4,056円	266円
合計	7,618円	8,152円	534円

1世帯当たり月534円増 ｜ **年間6,408円増**

※使用水量などにより負担額は異なります。

経営シミュレーションから見えること

上水道：料金改定を行わない場合、将来、資金残高が枯渇する試算。

下水道：人口減少と費用増加に対応するため、継続的な料金見直しが必要。

改定後も、経営状況や社会情勢を踏まえ、5年ごとを目安に見直す方針



※料金改定は現時点の予定です。条例改正が必要で、今後、議会の審議を経て決定されます。

提供資料「上下水道料金の改定について」（全5枚）